

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年11月12日

【評価実施概要】

事業所番号	3770104218
法人名	ひまわり介護有限会社
事業所名	グループホームひまわり
所在地	香川県高松市鬼無町藤井126-1 (電話)087-882-7131

評価機関名	社会福祉法人香川県社会福祉協議会		
所在地	香川県高松市番町一丁目10番35号		
訪問調査日	平成20年10月9日	評価決定日	平成20年11月12日

【情報提供票より】(平成20年9月25日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和 <u>平成</u> 19年3月1日
ユニット数	1ユニット 利用定員数計 9人
職員数	18人 常勤 6人, 非常勤 12人, 常勤換算 8.5人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨平屋建て造り 1階
------	----------------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	51,000円	その他の経費(月額)	理容・オムツ代実費 注入食準備代300/日水道光熱費600/日	
敷金	有(円) <u>無</u>			
保証金の有無(入居一時金含む)	有(円) <u>無</u>	有りの場合償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	500円	昼食	500円
	夕食	500円	おやつ	0円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(10月9日現在)

利用者人数	8名	男性	2名	女性	6名
要介護1	0名	要介護2	0名		
要介護3	0名	要介護4	0名		
要介護5	8名	要支援2	0名		
年齢	平均 86歳	最低	75歳	最高	99歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	ふじさわ医院 KKR高松病院
---------	----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当ホームは重度の要介護者が多い。そのために看護師の配置が多くされ医療ケアも充実している。その上、グループホームの目的に沿うよう利用者を生活者として捉え、一人ひとりのニーズを大切に、心身の活性化と生きる力を引き出すような支援が行われている。特にレクリエーションの導入や離床は利用者の表情を明るくしている。また、ホームは介護の高い人であっても受け入れ、看護と介護、尊厳ある生活を保障し、終末期までみていく方針で運営している。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 前回からの改善として、生活者の視点を取り入れることを重点にしている。例えばレクリエーションを毎日、短時間計画して行うことでの利用者の笑顔や、歌えることの変化に気づいている。できるだけ刺激を与えて寝たきりにさせないよう心がけている。その他の改善項目もできることから順次改善に取り組んでいる。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 管理者・職員は、お互いに評価項目について話し合い、改善する担当者も決めて全員で取り組んでいる。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議は2年間で4回開催し、現状の報告や病状報告をしている。参加者からの意見も少なく会議の話し合いも双方向にならない現状もある。市担当者や包括支援センター担当者との連携も必要時に取る程度に留まっている。会議開催が定期的ではない。運営推進会議の構成メンバーもその時で、変っていたり、市担当者や包括センター担当者、近隣住民などの参加が少ない。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 管理者は玄関に意見箱を設置したり、家族の面会時は必ず声をかけて直接、意見を聞くように努力している。家族から積極的な意見や不満などは聞かれていないが、意見は運営に反映させている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 事業所は開設2年目を経て、地域の方からも声をかけてくださり馴染んできている。利用者の状況で共に参加するというのが困難な現状ではあるが、獅子舞など事業所を訪問してくれている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所独自の理念として「利用者様のありのままを受け入れ、今までの生活歴を大切に、その人らしく尊厳のある生活を営む。地域との交流を図りながら温かくやさしさの詰まった明るい家庭をみんなで作ります」をつくりあげている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者・職員は理念を共有し、利用者のありのままを受け入れ、家庭的な雰囲気のなかで少しでもいい状態の維持・向上に努力している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	利用者の全員がほぼ寝たきり状態で、地域のお祭りや敬老会には職員が参加して交流を図っている。獅子舞いなどは事業所に訪問があり、利用者と共に見る機会はもっている。	○	利用者の状況で共に参加するということが困難な現状ではあるが、今後は行事や地域活動の情報を集め、ボランティアの訪問や事業所として地域で必要とされる活動や役割を、担えるように積極的に地域の人々と関わりをもつことを期待したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者・職員は評価の意義を理解している。具体的な改善として、例えばレクリエーションを短時間行うことでの利用者の変化に気づき、生活者の視点を取り入れた新たな取り組みをしている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2年間で4回開催されている。会議は現状の報告や病状報告などを主としている。家族代表者、参加者からの意見も少なく会議の話し合いも双方向にならない現状がある。構成メンバーもその時々で変っているが、定期的な市担当者や包括センター担当者や近隣住民などの参加が見受けられない。	○	運営会議の定期的な開催と、メンバーに市担当者や包括センター担当者、近隣住民などを依頼し、意見や要望をいただくなど双方向的な会議が望ましい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	管理者は、運営やサービス内容について様々な努力をされ、必要時は市担当者との連携を取っている。管理者が持っている課題で、例えば地元の交流の図りかたや運営推進会議などは市担当者の理解や支援が望まれる。	○	運営推進会議への参加を依頼する以外に市担当者と連携を図り、直面している課題や実態を共有・協議し共に取り組んでいくことを期待したい。
4.理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月、請求書送付時に、健康状態やケアプランと一緒に送付している。ひまわり通信は5回発刊しているが、家族の望むような安心につながる内容が少ないように感じる。全員の家族に配布が望まれる。	○	広報紙については前回評価時に毎月の発刊予定であった。実際は2年半で5回の発刊に留まっている。広報紙として、内容を改善するなどをし、例えば通信新聞的内容などの工夫改善が望まれる。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置している。家族の面会時は声をかけて直接、意見を聞くように努めている。重要事項説明時に外部機関の紹介もしている。意見は運営に反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者担当制であることもあり新規採用者にはオリエンテーションも細部にわたり行うなどダメージを最小限にする努力をしている。	○	職員異動があった場合は、広報誌に新職員を紹介して周知する方法も考えられる。
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月1回、内部研修を開催し、外部研修は公務として派遣している。そして、報告会など職員の育成には積極的に取り組んでいる。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣の2事業者と事業所間での相互研修や意見交換などの活動を行いサービス向上を図っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	某医院からの引き続き利用者であり、職員も大半が一諸に来たこともあり、今までの生活を考慮したサービス提供を心がけている。近々に新規利用者を1名迎える予定で、事業所から一度訪問して来たり、家族が訪れたりしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者は言葉で表現できない方が多くて意思疎通が図りにくいが、ケース担当制にして関わりを多くもち、声かけや趣味、経験を重んじた関わりをしている。その中で利用者の威厳ある態度や動作に感銘を受けている。		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	重度の利用者の一人ひとりの好みや思いは食事量や表情から理解するように努めている。ミーティングでの話し合いを通して利用者の意向に沿えるようにサービスを検討している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族や家庭環境に恵まれていない方もおられ、少ない情報量の中で利用者本位の個別サービスを検討している。そして、介護計画の作成時は、家族や職員の意見交換を主にモニタリング、週2回のミーティングの意見も反映して作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	職員は介護計画を遂行しその効果を見ながら、期間に応じての見直しや状態変化に伴う検討を行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	重度の利用者が多く、医療連携体制を強化し、医療処置を受けながら生活を継続している。利用者の介護量が多くショートステイ、デイケアなどの多機能の拡充までには至っていない。	○	24時間健康管理・医療活動の強化のサービスが中心となる利用者が多い現状では多機能を発揮するには困難があるが、今後の状況によって可能な範囲からの取り組みが期待される。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関から週1回の定期的な訪問診療があり、家族と情報共有をしている。入院などが必要な場合や状態によって利用者・家族の希望を聞き、希望する病院または協力医療機関と連携を取っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用者や家族の意向は事業所で終末期を迎えたい希望があり、その思いを大切にしつつ、よい終末期を過ごせるように話し合い全員が方針を共有し統一している。状態変化に応じての話あいも持っている。急変時、近隣の医療機関対応も連携が図れている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	日々の関わりのなかで丁寧な言葉づかいや態度で接し、記録類もプライバシーの保護に努めている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの生活リズムにあわせて、利用者には負担がかからないようゆとりをもってケアに臨んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者8名中5名が注肉食で、全員がほぼ寝たきり状況にあるが、その人の好みを家族から聞き、コーヒーや味噌汁などの香りを楽しめる工夫をしている。他の方にも好みに応じた調理方法を工夫している。準備や後片付けはできない状況にある。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	全介助が必要な方ばかりであり、特殊入浴槽で週2回程度の入浴である。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	音楽を流したり、訪室時に声かけをしたり、手足の運動での気晴らしに努めている。毎日レクリエーションを取り入れ、歌や簡単なゲームなどの支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	重度の利用者が多くベランダでの日光浴などの支援をしている。リクライニング式車椅子に乗れる方もいるが、寝ていることを好み無理はしていない。	○	重度の方が多く、利用者も横になることを好む方が多いが、可能な限り、車椅子などで近隣散歩など戸外の刺激に触れる機会を期待したい。
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	歩けない方ばかりであり、鍵はかけてない。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	管理者、職員はミーティングなどで夜間を想定しての避難の方法などは話し合っているが、実際の避難訓練は行っていない。避難経路は掲示板に貼っている。示されている避難経路には物も置いてあり、利用者を搬出するには難しい状況が見受けられた。「防火規定」で自衛消防隊について説明しているが、記載されたものはない。	○	「防火・防災規定」を早急に整備し、あわせて避難訓練を消防署や警察・近隣住民などの連携のもとに、定期的に行うことを希望したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士が献立表を作成している。食事・水分摂取量は記載し、血液検査の結果も参考にしながらその人に応じた支援をしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関ホールは風通しよく明るく家庭的につくられている。観葉植物を置き、栗を飾ったり花を入れて季節感を感じる。居室・トイレ・浴室も木を中心としたつくりになっていて、居心地よく過ごせる空間になっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた品物を飾ったり、コスモスの飾りを貼るなど寝ていても季節を感じるような工夫をしている。入り口の表示は木製のものに分かりやすい標示をしている。		